

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 40

学校名・団体名	八代小学校教育研究会体育部会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	表現遊び・表現運動における体育学習の充実
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>身につけさせることを明確にし、6年間を見通した系統的な授業によって、子どもたちの学習内容の獲得を保障するとともに、かかわり合う学習を通して豊かな心を育む。</p> <p>本研究では、小学校教員の困り感や認識の状況をもとに、「表現運動（表現リズム遊び）」の指導内容や指導方法について、具体的に整理する。これを基に、「子どもたちの心と体をはぐくむ体育学習（表現運動・表現リズム遊び）」のモデル授業を構築する。</p>	

【研究時期：平成29年4月～平成30年3月】

時期	内容	会場	備考
4月20日	組織作り、研究の方向等	八代市立金剛小学校	38名参加
5月下旬	第1回授業研究会事前研	八代市立植柳小学校	指導案、単元マップ等検討
6月30日	第1回授業研究会	八代市立松高小学校	30名参加
7月下旬	全体運営委員会	八代市立植柳小学校	36名参加
8月3、4日	夏季合宿研修会八代開催 (八代支部で運営)	八代ハーモニーホール 八代市立松高小学校	1日目：130名程度 2日目：60名程度
9月下旬	第2回授業研究会事前研	八代市立植柳小学校	指導案、単元マップ等検討
10月31日	第2回授業研究会	八代市立有佐小学校	34名参加
11月下旬	運営委員会	八代市立植柳小学校	9名参加
12月下旬	第3回授業研究会事前研	八代市立植柳小学校	指導案、単元マップ等検討
1月25日	第3回授業研究会	八代市立宮地小学校	36名参加
2月中旬	体育実践セミナー運営、諸準備等	八代市立植柳小学校	役割分担確認、模擬授業等
3月3日	体育実践セミナーin八代開催	八代市立植柳小学校	当日の運営
3月4～7日	研究まとめ：報告書作成		報告書作成、確認、提出

【研究の内容】

研究主題：運動の楽しさを味わいながら、主体的に活動する児童の育成
～「表現運動系領域」における表現遊び・表現の学習を通して～

1 研究主題について

(1) 「運動の楽しさを味わう」とは

- ・運動の特性に触れること
- ・運動の技能が身につくこと、高まること
- ・仲間とかかわり合いながら運動するよさを感じる

(2) 「主体的に運動する」とは

- ・学習計画に沿って、自ら進んで運動に取り組み、学ぶこと
- ・自分にあった学習課題を設定し、解決の見通しや振り返りをする

2 研究の構想

(1) 研究の仮説

「表現遊び」及び「表現」の学習において、学習のねらいを明確にした指導と評価計画を作成し、教師や仲間と関わり合いながら学びを深める双方向型の授業づくりを行えば、運動の楽しさを味わいながら、主体的に活動する児童を育成することができるであろう。

(2) 研究の視点

視点1：学習のねらいを明確にした指導と評価計画の作成

- ア めざす児童の姿を明確にした単元マップの作成
- イ 2カ年にわたる指導と評価計画の作成

視点2：教師や仲間とかかわり合いながら学びを深める双方向型の授業づくり

- ア 児童が表現運動の世界に没頭し、体を動かすことに夢中になれるような場や課題の設定
- イ 児童同士の能動的なかかわり合いを授業に仕組む
- ウ 教師による指導の工夫
- エ 言語活動の工夫

(3) 研究の実際

視点1について



今年度実施した3本の研究授業ごとに単元の構想図となる単元マップを作成した。授業者が、この授業で「何を教えるのか」「どのように教えるのか」そして「児童のどのような姿をめざすのか」を明記することで、見通しを持って授業に取り組むことができた。また、低・中・高学年における指導モデルを提示することで、双方向型の授業の在り方を参観者全員で検証を行った。

学年	単元	指導計画	評価計画	見直し
1年	1	1	1	1
1年	2	2	2	2
1年	3	3	3	3
1年	4	4	4	4
1年	5	5	5	5
1年	6	6	6	6
1年	7	7	7	7
1年	8	8	8	8
1年	9	9	9	9
1年	10	10	10	10
1年	11	11	11	11
1年	12	12	12	12
2年	1	1	1	1
2年	2	2	2	2
2年	3	3	3	3
2年	4	4	4	4
2年	5	5	5	5
2年	6	6	6	6
2年	7	7	7	7
2年	8	8	8	8
2年	9	9	9	9
2年	10	10	10	10
2年	11	11	11	11
2年	12	12	12	12

2カ年にわたる指導及び評価計画を作成し、二年間の見直しを持って指導を行うことができた。1単位時間毎にどの項目を評価するのも明記し、教師による評価及び児童同士による評価を計画的に行うようにした。

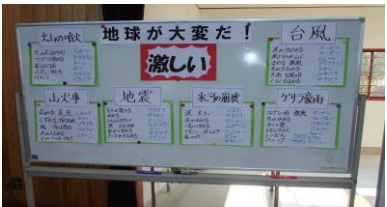
また、単元を通して心と体をほぐす運動を帯状に位置づけたことで、児童が表現運動の世界に没頭することができるようにした。

視点2について



タブレット端末を利用し、自分たちの動きを客観的に見合う活動を取り入れたことで、自分たちの動きを確認し、よい動きへと高めることにつながった。

また、ビデオや実物の写真などは、児童が表現したいものの動きのイメージを広げるのに効果的であった。



表したい物の動きをオノマトペで表現することで言語化、視覚化したことで、児童同士が動きのイメージを共有できるようにした。

また、活動の中で見つけたよい動きを取り上げ、焦点化したことでよい動きを全体でやってみたりお互いの動きを見合ったりすることができ、アドバイスを出す時のヒントとして効果的であった。

(4) 体育実践セミナーINやつしろの実施について



体育実践セミナーINやつしろでは、3本の模擬授業を実施した。参加者が児童役として授業に参加し、それぞれの授業のよさや課題を平成国際大学教授の村田芳子先生にアドバイスしていただいた。授業後すぐにフィードバックすることができ、授業者及び参加者にとって、とても有意義な研修となった。

また、村田先生には、「表現運動（表現）の授業づくりの考え方と指導の実際～その気にさせる・本気にさせる授業～」と題して、これまでの学習指導要領における表現運動の変遷やこれからの表現運動の授業の在り方についてご講演いただいた。

実技指導では、心と体のほぐし方や新聞紙を使った動きの広げ方、音楽を生かした動きの引き出し方などを参加者全員が動きながら直接指導を受けることができた。参加者は、表現運動における動きのポイントや児童への具体的な言葉かけの仕方など村田先生から学ぶことができ、実際に体験したことで児童の気持ちを実感することにつながった。



【成果や子どもたちへの効果等】

本研究会において年間3回の授業研究会を行ったことは、教師の表現運動に対する授業力を高め、児童の主体的な学びを引き出すことにつながった。また、本研究会に大学教授をお招きし、今後の研究、授業実践を行っていく上で、新学習指導要領の内容やポイントを踏まえた貴重な話を聞くことができた。

3月に平成国際大学の村田芳子教授による講演及び実技指導は、八代のみならず、県内外各地より参加された先生方が表現運動に対する考え方や指導方法について深く学ぶよい機会となった。

これまでに本研究会より上益城郡小学校体育研究会に参加し、上益城の体育研究を学ばせて頂いた。また3月の「体育実践セミナーINやつしろ」では、上益城の一門教諭をお招きし、模擬授業を行っていただき学びを共有することができた。八代と上益城で協力して研究実践交流を行い、熊本震災で心と体に大きな被害を受けた益城の子どもたちに運動の楽しさを伝える事につながると考える。今後も県内他都市と連携協力しながら「運動の楽しさを味わいながら、主体的に活動する児童の育成」をめざして、研鑽を重ねていきたい。